追悼　故　志邨晃佑　教授

四月一三日夜、志邨先生は永眠された。同一五日、節子未亡人と御遺族の方々、田中学長、戸田学部長他多数の参列を得て、先生を送る学部葬が蓮照寺でしめやかに行われた。

先生は、昭和七年島根県にお生まれになり、京都大学大学院（修士・博士）、島根大学文理学部（講師・助教授）を経て、同四三年本学教養部に助教授として着任された。以来、総合科学部助教授を経て、同五三年教授に昇任、地域研究研究科、社会科学研究科等をも担当された。その間、アメリカ史の教育と研究に献身され、多くの優秀な人材を育てられた。厳しい研究指導と温かいお人柄の故に、先生は常に学生の尊敬を一身に集められた。昨年末卒業生と在校生が多数集まって還暦のお祝いをしたときには、本当にお幸せそうであった。先生は、合衆国の革新主義に関する研究ではわが国における第一人者であり、アメリカ学会理事、中・四国アメリカ学会会長等を歴任されて、学会の運営と発展にも尽くされた。

病床にあっても、先生は学生の研究指導についていつも思いを巡らしておられた。病院から来校されて、長時間にわたり卒業論文の口頭試問に当られた。病を押してでも、今期の全ての授業を担当されるおつもりであった。教育・研究者としての責務を全うしたいとの強いご意志を最後の最後まで持ち続けられた。

今はただ、先生のご冥福を祈るのみである。

（総合科学部　英米研究講座　鹿野　忠生）

追悼　故　秦野裕子　事務官

秦野裕子さんは、平成四年四月一七日、二年半余に及ぶ闘病生活の甲斐もなく逝去されました。享年三九歳でした、ここに謹んで哀悼の意を捧げます。

秦野さんは、昭和五〇年四月に当研究所附属原爆被災学術資料センターに奉職され、原爆被爆者に関する新聞を中心とした情報の収集に携わっておられ、その後昭和五九年四月には、疫学・社会医学研究部門の事務官となられましたが、教室の一般事務のかたわら一貫して原爆被爆者問題の情報の収集、整理を続けられました。その成果は「資料調査通信」として、昭和五六年八月より平成三年九月までの十一年間にわたり九四号発行され、原爆被爆者研究の基礎資料として関連各界に大いに活用されております。

また、大学の外でも、秦野さんは多才の人で、「杵屋六勘裕」という長唄の名取りでもあり、詩では、二度にわたり中国新聞社主催の大会で二位に入賞されたことがありました。さらに、広島において全国水準のジャズグループを招くなどの企画能力を持ち合わせた人でした。

これから益々活躍が期待された人が、かくも若くして逝かれたことは残念でなりません。

心よりご冥福をお祈りいたします。

（原爆放射能医学研究所疫学・社会医学研究部門　早川　式彦）